

国

語

(解答番号)

1

～

36

第4問

次の文章を読んで、後の問い(問1〜6)に答えよ。(設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。)(配点 50)

吾郷(注1)錢明経(1)善詩賦(注2)。每歲督学(注3)科歲試(注4)古詩(注5)錢必冠軍(注5)。

一歲題為(注6)天柱賦。錢入場(注7)時、飲酒過多(ア)竟大醉(注8)、入号(注8)輒酣(注8)。

睡同(注9)試者疾(注9)其每試居首(注9)、不肯呼之使醒。有納卷者過(注9)其

旁(注10)乃告之(イ)。錢始嘗然(注10)已無及矣。卒爾問題、書七言絕句一

首。詩云、

我來揚子江頭望

一片白雲數点

安得置身天柱頂

倒看日月走人間

学^(注12) 使^レ得^テ卷^ヲ、評^{シテ}云^フ「此人胸中不知^ラレ^レ吞^ム幾^カ雲^(注13)夢^ヲ仍^{ヨリテ}取^ル第^一」。

(姚元之「竹葉亭雜記」による)

(注)

- 1 錢明経——人名。
- 2 賦——韻文の一種。長編を原則とする。
- 3 督学——官名。官吏を登用するための予備段階の試験において出題や採点を管轄した責任者。
- 4 科歳——科試と歳試。ともに官吏登用のための予備段階の試験のこと。
- 5 冠軍——成績最上位者。
- 6 天柱——神話の中に出てくる、天を支えているという柱。
- 7 場——試験の会場。
- 8 号——試験場の中にある受験者用の小さな個室。
- 9 納卷者——答案を回収する係の役人。
- 10 曹然——ぼんやりすること。
- 11 揚子江——長江の別名。
- 12 学使——督学の別名。
- 13 雲夢——古代、長江中流域にあつた広大な湿原の名。

問1 傍線部(1)「善」・(2)「疾」の意味を表す熟語として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

29
30

(1) 「善」

⑤	④	③	②	①
多作	愛好	博覧	特技	絶賛

(2) 「疾」

⑤	④	③	②	①
憎悪	閉口	苦痛	迅速	病气

問2 二重傍線部(ア)「竟」・(イ)「乃」・(ウ)「安」の読み方の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解

答番号は 31

- | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (ア) つひに | (ア) すでに | (ア) つひに | (ア) すでに | (ア) つひに |
| (イ) なほ | (イ) すなはち | (イ) なほ | (イ) なほ | (イ) すなはち |
| (ウ) いづくんぞ | (ウ) いづくんぞ | (ウ) いづくにか | (ウ) いづくにか | (ウ) いづくんぞ |

問3 傍線部A「不肯呼之使醒」について、(i)返り点の付け方と書き下し文、(ii)その解釈として最も適当なものを、次の各

群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 32 ・ 33。

(i) 返り点の付け方と書き下し文 32

- ① 不_下肯呼_レ之使_レ醒_上 肯_あへて之の使_レひを呼_ぶも醒_さめず
- ② 不_レ肯呼_レ之使_レ醒 之を呼_ぶも醒_めしむるを肯_がんぜず
- ③ 不_レ肯呼_レ之使_レ醒_上 之の使_レひを呼_ぶも醒_むるを肯_んぜず
- ④ 不_二肯呼_レ之使_レ醒 肯_へて呼_ばず之_きて醒_めしむ
- ⑤ 不_二肯呼_レ之使_レ醒 肯_へて之を呼_びて醒_めしめず

(ii) 解釈 33

- ① 声をかけるのを遠慮してそばまで行って目覚めさせた。
- ② 声をかけて起こそうとしたが目覚めさせられなかった。
- ③ 声をかけて目覚めさせてやろうという気にならなかった。
- ④ その使いの者を呼んだが目覚めさせることに賛成しなかった。
- ⑤ 勇気を出してその使いの者に声をかけたが起きなかった。

問4 傍線部B「已無_レ及_レ矣」の前後の状況を説明したものととして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解

答番号は 34。

- ① 銭明経は、仲間が起こしてくれなかったことにあきれたが、もう仕方がないので、ひとまず題を尋ね絶句を書いた。
- ② 銭明経は、はじめ事態が飲み込めなかったが、自分以上の実力者はいないので、落ち着いて題を尋ね絶句を書いた。
- ③ 銭明経は、試験が終了間近なことにようやく気づいたが、もう時間がないので、いそいで題を尋ね絶句を書いた。
- ④ 銭明経は、当初気が動転したが、解答题紙を取り戻すことはできないので、あわてて題を尋ね絶句を書いた。
- ⑤ 銭明経は、酒のために意識が朦朧^{もつろう}としていたが、後悔してもはじまらないので、強引に題を尋ね絶句を書いた。

問5 傍線部C「一片白雲数点」について、(a)空欄に入る語と、(b)この句全体の解釈との組合せとして最も適当なもの

を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。答番号は 35。

- ① (a) 淡——(b) 白い雲の切れ間から数本の淡い光が差し込んでいる。
- ② (a) 楼——(b) 空の片隅に浮く白い雲と幾つかの建物が見えている。
- ③ (a) 雨——(b) 白い雲が空一面に広がり雨がぼつぼつと降り始める。
- ④ (a) 山——(b) ひとひらの白い雲と幾つかの山があるばかりである。
- ⑤ (a) 鳥——(b) 空には一つの白い雲が漂い数羽の鳥が飛んでいる。

問6 傍線部D「仍取第一」とあるが、学使が錢明経を第一位にした理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

36

- ① 求めていた形式と異なる作品であることに不満はあったが、自身を天柱の頂上に置き、太陽や月を背にしながら人間界まで駆けおりたいという、詩の力強くかつ雄大な発想を高く評価したから。
- ② 違う形式の作品を提出したことは問題ではあるが、天柱の先端に身を置いて、太陽や月がこの世の中を逆方向に運行するのを見てみたいという、詩の奇抜で幻想的な着想を高く評価したから。
- ③ 本来求めていた形式とは異なる作品ではあったが、我が身を天柱の先端に置いて、太陽や月が人間界を巡ってゆくのを逆に上から眺めてみたいという、詩の気宇壮大な着想を高く評価したから。
- ④ 違う形式の作品をあえて提出した大胆さと、天柱の頂上に身を置いて、太陽や月が人間界を運行する様子を逆立ちしながら見てみたいという、詩の意表をつく型破りな発想を高く評価したから。
- ⑤ 要求されていた形式とは異なる作品を提出しても気にしない大らかな性格と、天柱の先端に身を置き、太陽や月が人間界を走るのを見上げたいという、詩の柔軟な発想を高く評価したから。